

河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

(赤川水系、加古川水系)

●小委員会開催

- ・ 赤川水系、加古川水系:5月15日、5月29日

● 各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

○ 赤川水系

(河道計画)

【質問】水制工は、航路維持のために整備されたとのことだが、瀬や淵の環境を形成しており、非常に大切である。今後河道掘削等を行う際には、水制はどのように扱うのか。

【説明】水制工は主に舟運のために明治18年から明治34年に整備され、現在水制工周辺にワンドや淵等の環境が形成され、ジュズカケハゼやウグイ等の生息環境となっている。治水、河積を確保するために平水以上相当の掘削を行うが、水制工については、平水位より高い部分は、切り下げて流下能力の向上を図り、平水位より低い部分は、現状のまま残すことを基本とし、これにより、現在のワンドや淵等の環境の保全に努める。

(総合的な土砂管理)

【意見】赤川は土砂生産が多い河川だが、月山ダムが完成し、土砂が堆積することを踏まえ、砂防を含め流域全体でどのような考え方で土砂管理を行うのか。

【説明・対応】赤川では、上流部で脆弱な地質が広がっており、月山ダムや荒沢ダムより上流域は荒廃地になるなど、生産土砂量が多く、荒沢ダム貯水池で土砂堆積が進行している。現在、みお筋の固定化や砂州の樹林化等が進行しており、月山ダムの完成に伴い、月山ダム貯水池での土砂堆積の進行、下流河道での河床低下等が懸念されている。これらに対し、モニタリングを行い、その結果に応じて、総合的な土砂管理を行う旨の説明があり、本文に記載することとした。

○ 加古川水系

(河道計画)

【意見】闘竜灘の改修は重要な課題であり、検討にあたっては、上下流の水面形等の水理特性を把握しておく必要があるのではないか。

【説明・対応】闘竜灘の改修の検討にあたっては詳細な調査観測を実施する旨の説明があり、本文に記載することとした。

【意見】河口部の河道改修において、干潟の植生を保全するために、滞筋部を深く掘削するとしているが、海側の地形状況を把握し、掘削部が短期間で元に

戻ることのないよう、留意する必要があるのではないか。

【説明】河口より沖の水深が、想定している掘削深より深くなっているため掘削は可能であると考えられるが、堆積する可能性もあることから、モニタリングを実施し、適切な管理を行う。

(正常流量)

【質問】正常流量の基準点を国包地点に設定しているが、当該地点は加古川大堰の湛水域であり、精度よく流量を把握できないのではないか。

【説明】大堰の貯水位、大堰からの放流量と取水量を測定し、流入量を求める場合、貯水位の変化量を流量に換算する過程において、精度的な課題が生じる。よって湛水に影響の無い区間に、観測所を新設することも含めて検討し、観測精度の向上に努める。

(その他)

【意見】加古川のように流域界が低い河川は、近隣の流域も含めた広域的な降雨特性についても把握することが必要ではないか。

【説明】加古川、由良川、円山川の3つの流域を対象に、著名洪水を調査分析したところ、台風性の降雨では、由良川流域や円山川流域で多雨となり、前線性の降雨では、加古川流域で多雨となる傾向等がある。

河川整備基本方針検討小委員会名簿
赤川、加古川水系

委員長	福岡捷二	中央大学研究開発機構教授
委員	綾日出教	(社)日本工業用水協会顧問
委員	池淵周一	京都大学名誉教授
委員	石島操	全国森林組合連合会代表理事専務
委員	入江登志男	(財)給水工事技術振興財団専務理事
委員	上河潔	日本製紙連合会常務理事
委員	岸井隆幸	日本大学理工学部教授
委員	楠田哲也	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
委員	小池俊雄	東京大学大学院工学研究系社会基盤学専攻教授
委員	酒井忠久	(財)致道博物館館長(酒井藩末裔酒井家18代当主)
委員	坂本弘道	(社)日本水道工業団体連合会専務理事
委員	佐藤準	全国土地改良事業団体連合会専務理事
委員	澤本正樹	東北大学名誉教授
委員	谷田一三	大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
委員	中川一	京都大学防災研究所流域災害研究センター教授
委員	蓬萊務	兵庫県小野市長
委員	松田芳夫	中部電力(株)顧問
委員	虫明功臣	福島大学理工学群共生システム理工学類教授
委員	森誠一	岐阜経済大学経済学部教授

委員 森田昌史 (財)日本水土総合研究所理事長

委員 齋藤 弘 山形県知事
(代理) 高村 義晴 山形県土木部長

委員 井戸 敏三 兵庫県知事
(代理) 鈴木 篤 兵庫県理事